

霞ヶ浦高等学校附属中学校

令和元年度 第二回専願入学試験問題

(令和元年十二月十四日実施)

国語

試験時間 六十分

注意

- 一 この問題用紙は、「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二 「はじめ」の合図があったら、最初に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三 問題を読むときは、声を出してはいけません。
- 四 答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五 記号による解答は、特別な指示があるもののほかは、あてはまるものを一つ選び、その記号を答えなさい。記号以外の解答は、指示のとおりに答えなさい。
- 六 字数制限のある問題では、句読点やかきかっこなどの符号もすべて字数にふくめます。
- 七 試験中に携帯電話などの使用はできません。けいたい

受験番号	氏名

- ① 次の一線部の漢字のよみがなを書きなさい。
- ② 十人十色
- ③ フランス革命。
- ④ 万事休す。
- ⑤ 至難のわざ。
- ⑥ 養殖産業。
- ⑦ 明暗を分ける。
- ⑧ 蚊帳の外。
- ⑨ 周囲からの期待。
- ⑩ 小雨が降る。
- ⑪ 答案用紙。
- ⑫ 田園風景。
- ⑬ 無尽蔵のスタミナ。
- ⑭ チームの方針。
- ⑮ 晩秋の空。
- ⑯ 人への気配り。
- ⑰ 順風満帆。
- ⑱ 緊急事態発生。
- ⑲ 永遠の願い。
- ⑳ 天然のダイヤモンド。
- ① 次の一線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。
- ② 風呂でセンガンする。
- ③ センバツチーム。
- ④ ルス番電話。
- ⑤ キセツの変化。
- ⑥ ソウビが充実している。
- ⑦ 応急シヨチ。
- ⑧ シンケンにやる。
- ⑨ 鎌倉バクフ。
- ⑩ 地元のエキ。
- ⑪ ポウカン着を着る。
- ⑫ ジョウウキ機関車。
- ⑬ 明日のコウスイ確率。
- ⑭ ギュウニユウを飲む。
- ⑮ 国語ジテン。
- ⑯ テンコウが悪化する。
- ⑰ 一心フラン。
- ⑱ シセイを正す。
- ⑲ 親のシヨクギョウ。
- ⑳ ドリョクする。
- ③ 問一 次の①・②の矢印の部分は何画目に書きますか。漢数字で答えなさい。

① 敬 ←

② 解 ←

問二 次の①〜③の漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

- ① 柔 ② 卷 ③ 兼

問三 次の①〜③の熟語の組み合わせは、あとのア〜オのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- ① 終戦 ② 開閉 ③ 上昇

- ア 同じような意味の漢字を重ねたもの (例 森林)
- イ 反対または対応の意味を表す漢字を重ねたもの (例 上下)
- ウ 上の漢字が下の漢字をくわしく述べているもの (例 暖流)
- エ 上の漢字が動作、下の漢字がその対象になっているもの (例 登山)
- オ 上の漢字が下の漢字を打ち消しているもの (例 非常)

問四 次の①～③の文の主語と述語をそれぞれぬき出して書きなさい。

- ① 私はここで待つ、君のことを。
- ② ぼくは君よりも逆上がりをする事ができる。
- ③ 負傷した先輩に代わって、自分が試合に出る。

問五 次の①～③の慣用句の意味は、あとのア～オのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- ① 油を売る
- ② 苦汁をなめる
- ③ 板につく

- ア 必要以上にあれこれ考える。
- イ その仕事にすっかりなじむ。
- ウ むだ話をして仕事をなまける。
- エ どんなことでもあきらめない。
- オ つらい思いをする。

問六 次の―線部の敬語の種類は、あとのア～ウのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- ① 三日後にまた参りますので、よろしくお願いいたします。
- ② お兄さんはすでにご結婚なされていらつしやるのですか。
- ③ これから避難訓練を始めます。

ア 尊敬語

イ けんじよう語

ウ ていねい語

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(A) ことばは世界への窓である。私たちは日々の生活の中で、特に意識することなく、ことばを通して世界を見たり、ものごとを考えたりしている。あらためて、ことばが私たちの日常にどのような役割を果たしているのか、ことばがない世界とはどのようなものなのか、などと考えることはめったにあるまい。だが、ことばは私たちの世界の見方、認識の仕方と一体どのようなかわりを持っているのだろうか。

(B) では、「水」ということばを知るようになる以前の小さな子どもは、「水」を大人のように理解していないのだろうか。「緑」という色は、どうだろう。「緑」ということばを知らない子どもは、「緑」という色を大人と同じように理解していないのだろうか。「左」ということばをまだ知らない子どもは、モノ同士の位置関係を大人と同じようには理解していないのだろうか。

(C) 同じ問いを次のように言い換えることもできる。「左」ということばを持たない言語——実際にあるのだが——を話す人たちは、私たちが「ほら、鍵はテレビの左側にあるよ」と言いたい状況で、どのようにその情報を伝えるのだろうか。そして、そもそもそのような言語を母語とする人たちは、モノ同士の位置関係についての理解の仕方や、自分の行く場所を探したり、空間の中でモノを探したりする仕方が、私たちと違うのだろうか。「緑」に相当する語を持たない言語の話し手は、私たちが「緑」と呼ぶ色に対して私たちと違う認識をするのだろうか。

(D) 実際、日本語は私たちの日常の中にも深く入り込んでいて、「緑」や「左」ということばを持たない言語があることを想像するのは、そんなに容易ではない。□、現実には「緑」や「左」に対応することばを持たない言語がたくさん存在するのである。

(今井むつみ『ことばと思考』一部改変より)

問一 「その情報」とはどのようなことですか。「こと。」に続くように本文中から十一字で抜き出しなさい。

問二 □に当てはまる言葉は、あとのア～エのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

ア 例えば イ また ウ そして エ しかし

問三 「例えば、私たちは、「水」がどのようなものか知っている。」という文は、本文中の(A)～(D)のどこに入るのが適切ですか。一つ選んで記号で答えなさい。

5

次のAかBのテーマを一つ選び、あとの条件に合わせた作文を指定の原稿用紙を使って書きなさい。

- A あなたが親に感謝していることは何ですか。
B あなたが最近気になったニュースは何ですか。

条件 1 四百字以上、六百字以内で書くこと。(句読点を含む。)

2 正しい原稿用紙の使い方をすること。

3 一行目から作文を書き始めること。